



枯れかかったオリーブの木

危機に瀕している 世界遺産に選ばれたオリーブの木

音楽ジャーナリスト

中 東生

イエス・キリストの誕生月から始まった連載が、昇天の月に最終回を迎えるとは奇遇です。

今年は5月21日がイエスの昇天記念日です。私はキリスト教徒ではありませんが、欧州では、キリスト教の祝日は日常生活と密接に結び付いているので、自然と興味が湧いてきます。

イエスは十字架で磔刑(はりつけの刑)に処された後、蘇り、40日間地上に留まって救済と復活の教えを広め、その後、父なる神の元へ昇天します。

昇天した地は、エルサレム近郊のオリーブの木が生い茂っていたオリーブ山だといわれています。オリーブは旧約聖書から頻繁に登場する植物です。

平和の象徴

オリーブの木の枯死が続く

ノアの方舟に乗り、大洪水の難を逃れた生きものたちの所へ、鳩がオリーブの枝をくわえて飛んで来て、世界の再生を伝えたという場面でも登場します。そ

のため、鳩もオリーブも平和のシンボルになりました。

そのオリーブの木が今、危機に瀕しています。気候変動、新型コロナウイルスや、止むことがない戦火が世界の平和を侵している証しに見えます。

昆虫が媒介するキシレラ・ファステイディオーサという細菌が、有力な産地であるプーリア州のオリーブの林を枯死させて続けています。2012年ごろから感染が確認され、14年には収穫高が激減し、その被害は現在まで広がっています。収穫減で、15年末には偽造されたオリーブオイル7000トンが摘発されたといわれています。

13年にワクチンが開発されましたが、感染が進んだオリーブの木は焼却しなければなりません。しかし農家の抵抗やマフィアの介入に加え、世界遺産に選ばれた長寿の木も含まれることから対策が遅れました。そのため、スペインなど即対応した国に比べて、オリーブ畑の枯死被

害が広がりました。

枯れていくオリーブ畑と オリーブオイルの値上がり

プーリア州のオリーブ農家は、北へ移住しています。細菌感染は現在も止まらず、年間10〜30kmの速度で北上し、終息する気配が見られません。

樹齢500年も珍しくなく、いまだにたわわに実を付けるオリーブの木が枯れていくのは、なんとも悲しい光景です。

わが家は、トスカーナ州のオリーブ農家からオリーブオイルを直接買っています。値段は年々上がっています。

人間のほうにも、新型コロナウイルスがファクションシヨなどを介して急速に広まりました。イタリア人は今、第二次世界大戦後、最悪の状況のなかでがんばっており、世界一位の感染国ではなくなりました。この美しい国に平和が戻って来たら、皆さんもいつか遊びに来てください。

中 東生(なか しのぶ): 東京芸大卒業後イタリア国立ミラノ・ヴェルディ音楽院に留学。著名な音楽家のインタビューをはじめ、音楽専門誌やコンサートプログラム、CDのブックレット執筆を主に欧州の音楽、文化、生活情報も発信。日欧文化交流企画も手掛けている。

Profile